

ソフトマネジメントによる労働時間削減の好事例

取組名 鉄道工事におけるインターバル制度の導入

取り組んだ現場の休暇取得状況 平均 4週8閉所確保

取組み概要

【目的】適正な勤務間インターバル時間を確保出来る状況を創出し、発注者をはじめ関係各者と協議を行う事で完全週休二日制の実現により長時間労働を抑制する。
【取組み内容】弊社内でインターバル確保するよう指導があり、11時間インターバルを確保させながら作業所運営する際の問題点の洗い出しを行い、どうすれば可能か、モデル現場を選定して定期的にモニタリングを行う。

取組みの背景・課題

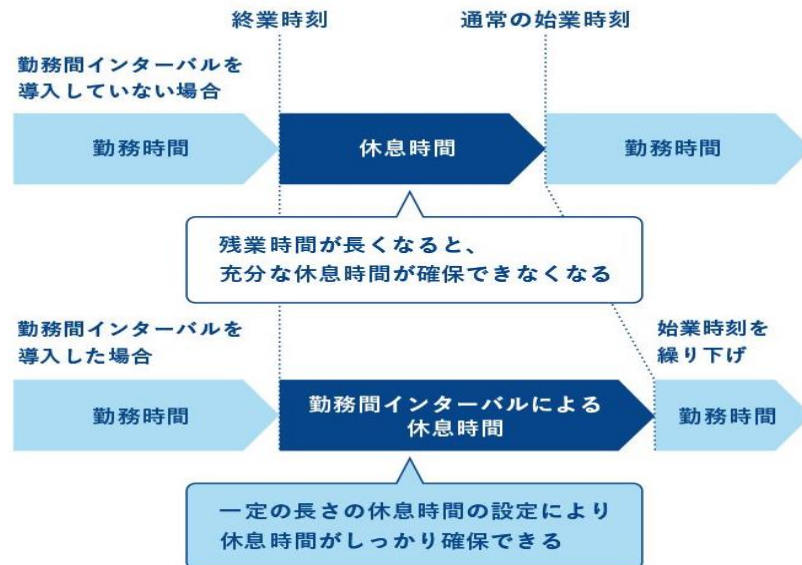
【背景】改修工事など小規模現場では一人の社員が昼・夜担当している現状があり、不規則な生活を送っていた。また何時から何時が自分の定時なのかあやふやな状態となり、夜間作業を管理する精神的重圧も重なって社員が疲弊していた。
【課題】勤務間インターバルを確保する社員の意識が低い事。引き継げるものは積極的に引き継ぐことを良しとする作業所内の雰囲気欠如していた事。

取組み詳細

インターバル制度概要

- ▷ 前日の業務終了時間から翌日の業務開始時間まで一定以上の休息時間を確保する。
- ▷ EU（欧州連合）では11時間以上のインターバル確保が義務。
- ▷ 日本では現在努力義務。具体的な休息時間設定や罰則なし。⇒今後、義務化の可能性大
- ▷ 弊社規定は原則11時間確保。例外は週2回以内。例外においても8時間は確保。

勤務時間インターバル制度導入による効果



効果

- ・ 毎日一定以上の休息時間を確保から、過重労働による健康障害の防止となる。
- ・ ワークライフバランスの向上
- ・ 離職率の低下も期待できる。
- ・ 労働時間が制限されるため、「ダラダラ残業」を防止し生産性向上にもつながる。

利点

- ・ 長時間勤務が当たり前の悪しき習慣を払拭できる。
- ・ 11時間インターバルは、夜間工事に目が向いているが昼間工事でも同じことが当てはまり、作業所全員の意識向上が期待できる。

継続のポイント

- ・ 今までの作業所運営よりも一歩踏み込んだ作業所内のシステム構築。
- ・ 施主・協力会社への要望と理解をいただく事。
- ・ 工事が進捗し管理箇所が増加した期間（繁忙期）、11時間のインターバルを確保し竣工まで継続出来る柔軟な対応。

改善点

- ・ 夜間勤務担当者と昼間工事担当者がはっきりと分かれる事になる為、担当しか知り得ない情報があると困る。自分の抱えている情報はすべてオープンにする意識と作業所内システム作りが必要。
- ・ 時間を意識するあまり、若手社員にとってはスキルアップや技術を吸収するなど、成長に使える時間が無くなる恐れがある。また技術伝承の業務の優先順位が後回しになる。

市販ソフト

- ・ 特になし

参考資料等

- ・ 特になし

適用条件等

- ・ 特になし

検索用分類

- 意識改革
 業務削減
 効率化
 人材育成・教育
 ワークシェア
適正工期
 休暇
 ワークライフバランス
 その他